

## カジュアルなおしゃれに ネクタイを



昨今の男性のおしゃれは年齢を問わず、紛れもなく進化しています。それが証拠に、デパートや専門店のメンズフロアへの力の入れようはすさまじいばかり。特に小物商品にはどこも充実を図っていて、色とりどりのスカーフやチーフが、今や売り場の真ん中で展開されていることには驚きます。スカーフもチーフもいいけれど、その前にベルトをもう一本、靴をもう一足加えてほしいというのが私の考えです。

ベルト幅はいろいろですが、3cm前後が流行にとらわれずおすすめです。色は黒と茶は必需品、もう一本ベージュのカジュアル系があるとよい。バックル付きのものはなるべく避けたほうがよい。しかし、本当におしゃれをしようと思ったら、最低10本は持ちたいところ。その理由は、尾錠の形や大きさひとつで服装のイメージがまるで変わってしまいます。ベルトはもちろん、シャツやネクタイや靴なども、多く持てば持つほどそれぞれが長持ちするというのも知っておいて損はありません。

特に顔の近くに身につけるネクタイは、それひとつで表情を良くも悪くもします。自分の顔に映える色柄の「勝負ネクタイ」で、新たなおしゃれに挑戦してみたいかがでしょう。

そして、かつてネクタイを売っていた私が、最近気になっていること。まずプリント柄が見当たりません。ほとんどがストライプや小紋、無地であること。特に無地の台頭には驚くしかありません。無地のネクタイなんて、昔は冠婚葬祭用の白と黒以外はあまり売れなかったもの。ところが今や、政界や財界人の元気さをアピールする材料にまで、上手に利用されています。黄色や赤のネクタイなどは、一昔前ならあり得ませんでした。

色だけでなく、細身のデザインなど、全体的におしゃれになってはいるものの、そもそもプリントネクタイがなくなったことの原因を、私なりに考えてみました。

ひとつは、ノーネクタイの文化がそれなりに根付いてきたことでしょうか。「クールビズ」の普及は今ひとつですが、仕事とプライベート、平日と休日＝オンとオフを使い分けできる人が増えてきたことはうれしい限りです。

そしてもうひとつは、社交接待文化の変化から、その世界の人たちからのプレゼントが減ったことにも起因するのではないのでしょうか。つまり、プリント柄は女性好みというわけです。銀座にあれだけあったネクタイ屋が一軒もなくなっているのがその証拠。最近のファッション傾向もあるのですが、今から40年ほど前、ネクタイ屋をやっていた頃をいやに懐かしく思う今日この頃です。